

## 第313回薬事委員会報告

日 時 令和7年 12月 4日 (木) 15:00~15:30

場 所 病院会議室A

出席者 堀、三宅、長谷川、諸藤、神村、池内

欠席者 高松、川浪、今福、津川、戸川、小松

## 議 事

## I. 新規採用医薬品

	適否	製品名	削除医薬品
1	適	オフェブカプセル 100mg	ビレスバ錠200mg
2	適	ボルズイ錠 5mg	ゼプリオン水懸筋注 75mg シリンジ
3	適	テブダック点滴静注用 40mg	プロスタグラジン E2 錠 0.5mg 「科研」
4	適	ナルティーク OD 錠 75mg	プロモクリプチニン錠 2.5mg 「フロー」
5	保留	アブストラル舌下錠 100 μg	イーフェンバッカル錠 50 μg
6	保留	アブストラル舌下錠 200 μg	イーフェンバッカル錠 100 μg
7	保留	メサペイン錠 5mg	イーフェンバッカル錠 200 μg
8	適	キヤップバックス筋注シリンジ	Havrix1440 (A型肝炎ワクチン)
9	適	ネクセトール錠 180mg	ニトロール注 5mg シリンジ
10	適	レパーサ皮下注 140mg ペン	レパーサ皮下注 420mg オートミニドーザー
11	適	アミティーザカプセル 12 μg	アミティーザカプセル 24 μg
12	適	ルミセフ皮下注 210mg ペン	ルミセフ皮下注 210mg シリンジ

削除医薬品が先発品の場合は、削除決定後自動的に院外専用医薬品となる（一般名処方薬がある場合は除く）

## II. 後発医薬品 (GE) への切替

	適否	AG/BS	製品名	削除医薬品
1	適	BS	アフリベルセプト BS 硝子体内注射用キット 40mg/mL 「NIT」	アイリーア硝子体内注射用キット 40mg/mL

## III. 試薬・製剤原料等

該当なし

## IV. 新規院内特殊製剤

該当なし

## V. 臨時購入医薬品 (院内専用 患者限定)

新規購入品目（令和7年9月6日～令和7年11月7日）

	製品名	申請科	申請理由
1	ノクサファイル錠 100mg	呼吸器・乳腺・小児外科	アスペルギルス症
2	サルグマリン吸入用 250 μg	呼吸器内科	自己免疫性肺胞蛋白症
3	ツムラ麦門冬湯エキス顆粒 (医療用)	呼吸器内科	難治性咳嗽
4	ランブレンカプセル 50mg	呼吸器内科	肺非結核性抗酸菌症
5	タバリス錠 150mg	腫瘍・血液・感染症内科	慢性突発性血小板減少性紫斑病
6	ハイヤスタ錠 10mg	腫瘍・血液・感染症内科	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫
7	メグルダーゼ静注用 1000	腫瘍・血液・感染症内科	メトレキサート・ロボリソマントリーリング救援療法によるメトレキサート排泄遅延時の解毒
8	カログラ錠 120mg	消化器内科	潰瘍性大腸炎・全結腸炎型
9	アダリムマブ BS 皮下注 20mg シリンジ 0.2mL 「CTNK」	小児科	若年性突発性関節炎
10	シナジス筋注液 50mg	小児科	早産に伴う新生児のRSウイルス感染症抑制
11	ウェリレグ錠 40mg	腎泌尿器外科	がん化学療法後に増悪した根治切除不能または転移性の腎細胞癌
12	スマイラフ錠 50mg, 100mg	整形外科	SAPHO症候群

13	ツムラ酸棗仁湯エキス顆粒 (医療用)	精神神経科	不眠症
14	イクスタンジ錠 80mg	総合診療科	前立腺癌
15	チラーデン S 静注液 200 μg	内分泌・糖尿病内科	甲状腺機能低下症
16	エトドラク錠 200mg 「SW」	皮膚科	活動性乾癬性関節炎

#### VI. 院外専用医薬品 (令和7年11月7日時点)

カナリア配合 OD錠	クラシエ人参湯エキス細粒	クラシエ八味地黄丸エキス細粒
クラシエ補中益気湯エキス細粒	セタネオ点眼液 0.002%	ミチーガ皮下注入 60mg シリンジ
モニラック・シロップ 65%		

#### VII. 販売名変更

該当なし

#### VIII. 販売中止

〈販売中止に伴う切替採用申請〉

	販売中止となる採用薬	販売中止予定時期	切替採用薬
1	シングレア細粒 4mg	2026年12月	キプレス細粒 4mg
2	グリクラジド錠 20mg 「サワイ」	2025年3月 (在庫消尽予定時期)	グリミクロンHA錠 20mg
3	YD ソリターT1号輸液 (200mL)	2025年9月中旬 (在庫消尽予定時期)	ソリターT1号輸液 (200mL)
4	YD ソリターT3号輸液 (200mL)	2025年9月中旬 (在庫消尽予定時期)	ソリターT3号輸液 (200mL)
5	オキシドール消毒用液 「マレイシ」	2025年12月中旬	オキシドール 「ニッコー」
6	エダラボン点滴静注液 30mg バッグ 「明治」	2025年12月	エダラボン点滴静注液 30mg バッグ 「NP」
7	ビクトーザ皮下注 18mg ※	2026年後半	-

※ ビクトーザ皮下注 18 mg の代替薬は、同一作用機序のオゼンピック皮下注 2 mg となる。

#### IX. 供給遅延・供給停止等のお知らせ

〈供給遅延・供給停止等とそれに伴う切替採用申請〉

該当なし

#### X. 副作用報告

2025年9月～10月の副作用報告件数は23件であり、そのうち非重篤なものは19件、重篤なものは5件（下記記載）であった。

副作用発現日	年齢	性別	被疑薬	症状	軽快	報告者	PMDA 副作用報告
2025/06/06	44	男性	注射用イホマイド1g	出血性膀胱炎	軽快※	薬剤師	無
2025/07/15	80	女性	イニシンク配合錠	水泡性類天疱瘡	軽快※	薬剤師	有
2025/08/29	26	女性	カルバマゼピン錠 200 mg 「アメル」	重症薬疹	軽快※	薬剤師	有
2025/9/2	53	女性	エスシタロプラム錠 20 mg 「JG」	QT 延長	軽快※	薬剤師	有
2025/09/26	30	女性	アザルフィジンEN錠 250mg	スティーブンス・ジョンソン症候群	軽快※	薬剤師	有

※医療用語では明確な定義はないが、広辞苑によれば回復は健康状態に戻ること、軽快は病気が少しそくなることを意味する。

#### XI. 同種同効薬：採用医薬品の適正化

該当なし

#### XII. その他

##### 1. 使用量低頻度医薬品の院内削除

該当なし

2. 適応外・禁忌医薬品使用に係る申請 (2025年9月~10月) >

		申請科	薬品名	使用目的	倫理委員会審議の必要性
1~2	適応外	産婦人科	ピトレシン注射液 20	婦人科手術（子宮筋腫核出術、異所性妊娠手術、卵巣嚢胞摘出術）における子宮・卵管・卵巣への局注による手術部位の出血量減少	なし(薬事委員会)
3	適応外	呼吸器内科	ランブレンカプセル 50 mg	非結核性抗酸菌症	なし(薬事委員会)
4	適応外	整形外科	セファゾリンナトリウム注射用 2g	同種骨移植の際の感染予防、鎮静化	
5	適応外	整形外科	バンコマイシン塩酸塩点滴静注用 0.5g	CNS 検出の人工関節感染に対するセメント内への混合	なし(薬事委員会)
6	適応外	整形外科	液状フェノール	骨巨細胞腫に対する腫瘍搔爬後の残存腫瘍搔爬	あり
7	適応外	整形外科	エタノール	骨巨細胞腫に対する腫瘍搔爬後の残存腫瘍搔爬	あり
8~9	適応外	整形外科	リファンピシンカプセル 150mg	バイオフィルム形成が予測されるインプラント感染	なし(薬事委員会)
10~11	適応外	腎泌尿器外科	エゼチミブ錠 10 mg	乳び漏	あり
12~13	適応外	腎泌尿器外科	オクトレオチド酒酔塩皮下注 100 μg	乳び漏	あり
14~29	適応外	心臓血管外科	バンコマイシン塩酸塩点滴静注用 0.5g	縦隔炎予防のため閉胸時にペースト状にして塗布	なし(薬事委員会)
30	適応外	消化器内科	セルセプトカプセル 250	自己免疫性肝炎	なし(薬事委員会)
31	適応外	消化器外科	オクトレオチド酒酔塩皮下注 100 μg	術後リンパ漏	あり
32	適応外	消化器外科	オクトレオチド酒酔塩皮下注 100 μg	脾液漏	あり
33	適応外	消化器外科	エホチール注 10mg	術後リンパ漏	あり
34	適応外	救命センター	ファスジル塩酸塩点滴静注液 30mg	くも膜下出血による遲発性脳血管攣縮	なし(薬事委員会)
35	適応外	救命センター	ゲンタマイシン硫酸塩注射液 10mg	細菌性皰膜炎	なし(薬事委員会)
36	適応外	眼科	ブイフェンド 200mg 静注用	アカントアメーバ角膜炎	なし(薬事委員会)

3. 薬事ニュース No. 115 (資料1)

4. 後発医薬品使用体制加算について

2022年4月以降の後発医薬品の割合は90%以上、カットオフ値50%以上である。

後発医薬品使用体制加算1 (47点→87点: 入院期間中1回に限り、入院初日に算定) の取得継続が可能となった。

今後も、現状を維持すべく後発医薬品の使用を推進していく。

	8月	9月	10月
全医薬品の規格単位数量 ①	614,975	556,779	657,593
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量 ②	271,093	262,248	274,990
後発医薬品の規格単位数量 ③	256,584	249,740	256,584
カットオフ値の割合 ②/①	54.5% <sup>※1</sup>	54.0% <sup>※1</sup>	53.9% <sup>※1</sup>
後発医薬品の割合 ③/②	94.7%	95.2%	95.1%

※1 令和7年度薬価改定を踏まえた診療報酬上の臨時的な取扱いでの数値

5. バイオ後続品使用体制加算について

令和6年度診療報酬で新設され、(1)直近1年間の使用回数が100回以上かつ、(2)≥80%、(3)≥50%でバイオ後続品使用体制加算(バイオ医薬品を使用する患者について入院初日に100点)の取得が可能となった。(1)については、年間使用回数が100回以上であることを確認した。

	置き換え割合 80%以上	置き換え割合 50%以上
バイオ医薬品の内、バイオ後続品の規格単位数量の合計 ①	1,539	6,423
バイオ医薬品の規格単位数量の合計 ②	1,583	8,711
① /②	(1) 97.2%	(2) 73.7%
	(イ) エポエチン (ロ) リツキシマブ (ハ) トラスツズマブ (二) テリパラチド	(イ) ソマトロビン (ハ) エタネルセプト (ホ) ベンシズマブ (ト) インスリンアスパルト (リ) ラニビズマブ (ロ) インフリキシマブ (二) アガルシングゼベータ (ヘ) インスリンリスプロ (チ) アグリリムマブ

6. 院内廃棄薬について

2025年9月と10月における院内廃棄薬の総金額は、376,077円であった。上位品目は、メチレンブルー静注50mg (122,611円) 、レバーサ皮下注420mg オートミニドーザー (94,376円) 、イダマイシン静注用5mg (57,258円) であった。廃棄理由はすべて期限切れであった。

7. その他

2025年11月25日現在の総採用品目数は2,569品目であり、うち後発医薬品は545品目 (21.2%) である。

次回薬事委員会は、令和8年2月4日 (水) 15時より病院会議室Aで行う。